NZとUSAで稼働する林業機械

New Zealand





USA Link-Belt





北米は Link-Belt ブランドで展開

BACK NUMBERS



森友 vol.17

株式会社 ドウナン林業
北海道
SH135X-7 IWAFUJI GPi40TC
有限会社 サンワーク三浦
秋田県
SH135X-7 MSE プラキオ EX
株式会社 吉本
長野県
SH135X-7 KESLA 25SHmkⅡ
有限会社 氏原林業
静岡県
SH75X-7 OKADA 木材グラップル
株式会社 岡本
滋賀県
SH75X-7 IWAFUJI 木材グラップル
南宇和森林組合
愛媛県
SH135X-7 KESLA 25SHmkⅡ
有限会社 藤義運輸
大分県
SH135X-7 KESLA 26RHmkⅢ



森友 vol.16

有限会社 共同木材土木
北海道
SH120-7 玉置製グラップル
遠野地区国有林材生産協同組合
岩手県
SH135X-7 IWAFUJI GP45A
有限会社 遠田林産
山形県
SH135X-7 LOGSETハーベスタ TH55
南魚沼森林組合
新潟県
SH135X-7 オカダ木材グラップル+ウインチ
株式会社 大義林研
福井県
SH135X-7 Woody WH50-1
ロガーワークス 株式会社
福井県
SH135X-7 IWAFUJI グラップルソー
山元林業
宮崎県
SH135X-7 KETO 150 ECO



森友 vol.15

堀川林業 株式会社
北海道
SH135X-7 WOODY WH50-1
合同会社 トップフォレスト
宮城県
SH135X-7 PONSSE H6
大野材木店
埼玉県
SH135X-7 IWAFUJI GS90LJ
株式会社 白糸植物園
静岡県
SH135X-7OKADA S110F101 FG27
北但西部森林組合
兵庫県
SH135X-7 KESLA25SHmkⅡ
有限会社 中越木材
広島県
SH135X-7 IWAFUJI GP35B
有限会社 大川林業
熊本県
SH120-7 IWAFUJI GP45V



森友 vol.14

株式会社 リーヴフォレスト
大分県
SH75X-6A KESLA 20SH mkⅡ
株式会社 あすなろ四国支社
高知県
SH135X-7 MSE フェラーバンチャザウルスロボ
北はりま森林組合
兵庫県
SH75X-7 KESLA 20SH mkⅡ
下呂総合木材市売協同組合
岐阜県
SH120LC-7SM（スミマックス）
美和木材協同組合
茨城県
SH135X-7 MSE ハーベスタ（トリケラ）
浜崎製材 株式会社
福島県
SH135X-7 AFM テレスコピックアーム&伐倒ソー
株式会社 昭林
岩手県
SH120-7 PONSSE H6

森友 vol.13

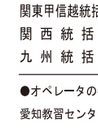
米嶋銘木株式会社
京都府
SH75X-6A
KESLA20SH mkⅡハーベスタ
株式会社柳沢林業
長野県
SH135X-7
KESLA25SH mkⅡハーベスタ
スルガフォレスト株式会社
静岡県
SH135X-6 KESLA25SH mkⅡハーベスタ
株式会社鹿角緑地
秋田県
SH135X-7 KESLA25SH mkⅡハーベスタ
千歳林業株式会社
北海道
SH120-7 IWAFUJI グラップル

森友 vol.12

越智重機林業
北海道
SH135X-7
PONSSE H6 ハーベスタ
有限会社真貝林工
北海道
SH135X-7
MSE-TR-550 トリケラハーベスタ
株式会社島田木材
富山県
SH135X-7
KESLA25SH mkⅡハーベスタ

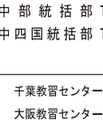
森友 vol.11

井上産業株式会社
北海道
SH135X-7 WOODY 50
みちのくバイオエナジー株式会社
青森県
SH120LC-7MH MUROTO グラップル
有限会社斎一林業
福島県
SH120-7 IWAFUJI GP45A
有限会社西湘造林
神奈川県
SH75X-6A NANSEI グラップル
竹上木材株式会社
和歌山県
SH135X-7 KESLA25RH mkⅡ
隠岐島後森林組合
島根県
SH120-7 NANSEI スイングヤーダ
有限会社つしまエコサービス
長崎県
SH135X-7 IWAFUJI グラップル



森友 vol.10

仲山林業株式会社
岩手県
SH120-7 PONSSE H6
アブクマエコロジー有限会社
福島県
SH135X-7 KESLA25SH mkⅡ
企業組合 山仕事創造舎
長野県
SH135X-7 IWAFUJI グラップル
静岡市森林組合
静岡県
SH135X-7 KESLA25SH mkⅡ
株式会社山崎木材市場
兵庫県
SH120-7 選木仕様
福岡都市開発株式会社
福岡県
SH135X-6 KETO150
株式会社トライ・ウッド
大分県
SH135X-6 NANSEI NPH-48



森友 vol.09

オホーツクバイオエナジー
株式会社
北海道
SH135X-6 グラップル
雄勝広域森林組合
秋田県
SH135X-6 WOODY
田中林業株式会社
東京都
SH75X-6A KESLA20SH
株式会社守岡林産
広島県
SH135X-6 KETO
株式会社高知官材
高知県
SH135X-6 KESLA25SH



森友 vol.08

苫小牧バイオマス発電
株式会社
北海道
SH250-6MH
株式会社
レンタルのニッケン
東京都
株式会社 ヨシカワ
石川県
八頭中央森林組合
鳥取県
SH75X-6A
丸和林業グループ
山陰丸和林業株式会社
京都府
SH135X-6



森友 vol.07

齊藤重興業
北海道
SH135X-6
気仙地方森林組合
岩手県
SH120-5
小田原緑化開発
群馬県
SH135X-6
白川町森林組合
岐阜県
SH135X-3B
丹波市森林組合
兵庫県
SH75X-3B
山陽商事
岡山県
SH125X-3
宮崎森林発電所
宮崎県
SH120-5



森友 vol.06

五島森林組合
長崎県
SH135X-3B
四万十町森林組合
高知県
SH75X-3B
飛騨高山森林組合
岐阜県
SH120-5



森友 vol.05

グリーン・シャイン
鳥取県
SH75X-3B
秋田グリーンサービス
秋田県
SH75X-3B
つがる森林組合
青森県
SH135X-3B



森友 vol.04

山崎木材
広島県
SH135X-3B
美山町森林組合
福井県
SH135X-3B
群馬県森林組合連合会
群馬県
SH120LC-5SM
北海道ニッタ
北海道
SH135X-3B



森友 vol.03

上野物産
鹿児島県
SH75X-3B
長浜市伊香森林組合
滋賀県
SH135X-3B
神子沢林業
山梨県
SH120-3
木材商秋田林業
徳島県
SH120-5
竹田木材
石川県
SH135X-3B
よつばフォレスト/浅野産業
北海道
SH135X-3B



森友 vol.02

溝渕林業
高知県
SH75X-3
松阪地区木材協同組合
三重県
SH135-3B
秩父広域森林組合
埼玉県
SH75X-3B
西垣林業
奈良県
SH200LC-5SM
日和田林産
岐阜県
SH135X-3B
三井物産フォレスト
北海道
SH120-3



森友 vol.01

萬造寺林業
鹿児島県
SH135X-3
美山村森林組合
和歌山県
SH75X-3B
三次地方森林組合
広島県
SH75X-3
二和木材
岩手県
SH120-3

住友建機株式会社
https://www.sumitomokenki.co.jp

住友建機販売株式会社
https://www.sumitomokenkihanbai.co.jp

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1（ThinkPark Tower）TEL.03-6737-2610

北海道統括部 TEL.050-9001-8626 東北統括部 TEL.050-9001-8630
関東甲信越統括部 TEL.050-9001-9709 中部統括部 TEL.050-9001-8639
関西統括部 TEL.050-9000-9709 中四国統括部 TEL.050-9001-8600
九州統括部 TEL.050-9001-8647

●オペレータの養成・資格取得のご相談は
千葉教習センター TEL.043-420-1549
愛知教習センター TEL.0566-35-1311
大阪教習センター TEL.06-6476-4555

2610-N-5.0A

SUMITOMO

SHINYU vol.18
2026
AUTUMN

森友



中頓別・浜頓別町森林組合
北海道
SH135X-7 PONSSE H6



佐々木林業土木株式会社
岩手県
SH120-7 KESLA 25RHS mkⅡ



株式会社 マルワイ
新潟県
SH235X-7 IWAFUJI グラップルソー



有限会社 池野商店
愛知県
SH135X-7 IWAFUJI GP35V2 オイルクイック付



株式会社 橋本林業
和歌山県
SH75X-7 IWAFUJI GP25V



有限会社 寿園
岡山県
SH135X-7 OKADA NPH48



株式会社 迫田興産
鹿児島県
SH135X-7 IWAFUJI グラップル

動画はこちら

熊野古道 紀伊路



中頓別・浜頓別町森林組合

本社所在地：北海道枝幸郡中頓別町中頓別１６１－６
代表理事組合長　只野 國男 様
電　　話　０１６３４－６－１００４
法 人 設 立　昭和４３年

中頓別・浜頓別町森林組合は、その名のとおり昭和43年に中頓別町森林組合と浜頓別町森林組合が合併して設立された法人組織である。現在組合員数は201名。一般民有林面積は中頓別町9100ｈａ, 浜頓別町で10000ｈａ、両町合わせて20000ｈａほどあり、そのうちトドマツ、カラマツやアカエゾマツなどの人工林が40パーセント程度になる。組合員は、高齢化などで減少傾向にあり、新規会員の確保に取り組んでいるという。中頓別町と浜頓別町の両町とも行政的には北海道最北の宗谷総合振興局に属している。その気候は、冬季の積雪は2mを超え、最低気温も−30℃を記録する酷寒の地である。基幹産業は農・林・水産の一次産業だが、農業は気候条件から水田や大規模な畑作には向かず、酪農が中心である。ご自身も酪農家であった代表理事組合長の只野國男様にお話しをうかがった。

「私はもともと酪農出身ですので山に詳しくありませんでした。森林組合の監事・理事として関わり始め、組合の諸先輩から色々教えていただき、森林の価値や重要性を実感することで山への認識が変わりました。特に森林管理の大切さを教えていただきましたが、切捨て間伐や枝打ちなどの手入れをしてきた山は、伐採時にかなりの収益が出ます。一方で手入れが不十分な山は収益性が低い。切捨て間伐や枝打ち・間伐などの森林整備を適切に行うことで、森林に光が入り残った木が太く成長し将来的に森林価値が高まることになる、森林は放置せず、継続的に管理することが大切だと実感しました。また、森林は木材生産の資源として存在しているだけでなく、水や生態系を守る役割を担っていることを意識することも重要だと思っています。浜頓別町はホタテなどの漁業振興に力を入れていて、昭和63年から続けられている『お魚を殖やす植樹運動』では森林組合が苗木を供給し漁業組合の婦人部の方たちが植樹を行う、海と森のつながりを意識した活動を長年継続しています。」

ホームページの「100年先まで持続可能な森をつくり地球を守る」について取り組まれていることをお話しいただいた。

「大きな話ですが、その理念を大切にしたいと思っています。持続可能な森林経営と人材育成は、組合の組織基盤を固めるための必要条件です。経営実績として素材生産量は、昨年度実績が7000㎥でしたが、今年度は11000㎥と大きく増加しました。定期的なミーティングで課題を洗い出し、ひとつひとつ問題点を改善してきました。
現場の段取り改善や、林業機械の充実などが実績に反映したと考えています。

高性能林業機械は2015年に住友建機からケスラーのストローク式ハーベスタを導入したのが最初です。当時の組合長が、「チェーンソーで伐倒してブルで集材する時代は古い。今はハーベスタで伐倒してフォワーダで搬出する時代になってきている、作業の効率化を上げるため時代の変化についていこう。」と機械化を進められました。ただ当初は使い勝手がよく分からず、造材も広葉樹主体だったので機械に無理をさせてよく故障しました。しかしアフターサービスが迅速で丁寧に対応してくれたので助かりました。それがあったのでポンセのハーベスタを始め、その後に導入した機械はすべて住友機です。現在はグラップル3台、ハーベスタ1台、フェラーバンチャ ザウルスロボ1台を所有しています。人材としては、社員は正社員8名、契約社員を含めると13名です。20代、30代が各2名、40代3名と年齢的なバランスが取れていると思っています。特に20代は男女各1名ですが、北の森カレッジの1期生で二人とも優秀で、即戦力になってくれました。若手人材には大きな期待をしています。仕事は、受身ではなく、主体的に考え「山を良くする」「活力ある組合にする」という意識を持って経営者目線で現場を見られる人材に成長してほしい。私自身も若い世代の発想や知識に刺激を受け、それを取り入れながら組織を発展させていきたい。そうして次世代に森林を引き渡すことが重大な使命だと考えています。」





SH135X-7 PONSSE H6

100年先まで持続可能な森をつくり地球を守る

SH135X-7 MSE フェラーバンチャ ザウルスロボ　SH135X-7 PONSSE H6　SH135X-7 IWAFUJI グラップル







佐々木林業土木株式会社

本社所在地：岩手県遠野市附馬牛町東禅寺１－８－１
代表取締役　佐々木 一夫 様
電　　話　０１９８－６８－８７００
法 人 設 立　令和３年

佐々木林業土木株式会社は、令和3年に岩手県遠野市に於いて設立されたばかりの法人だが、林業家としては、現社長の祖父が事業開始した時期から数えると66年の間、遠野の森を育て、守り続けて来られた地域を代表する林業事業者である。

同社の代表である代表取締役佐々木一夫様に同社の沿革や事業内容をお話しいただいた。「私は高校卒業後、将来的に家業を継ぐつもりで入社しました。私が働き始めた頃は、仕事の大半が植林や下刈、間伐などの保育作業が中心でした。当時は重機もほとんど使うこともない、人力による作業が中心でした。しかし、時代の変遷とともに事業の中心だった造林事業が徐々に減少し始めたため、伐採や素材生産へと事業を拡大変更していく決断をしました。その大きな転機となったのは高性能林業機械の導入です。同業他社や周囲の利用者の意見を聞き、評価の高かった住友SH120ベースのKESLAハーベスタの導入を決定しました。導入当時の素材生産量は300㎥程度でしたが、徐々に若手の従業員も雇い入れ、機械もグラップルやフォワーダなど増やして行き素材生産量も20000㎥規模にまで増大していきました。機械導入当初は補助金事業を利用できず、中古機を中心に台数を増やしながら自社の実績を積み重ねてきました。森林組合との連携や現場での試行錯誤を繰り返し、生産効率を高めてきた経験が現在の社の基盤になったと思っています。



現在社員数は8名、20代から50代まで幅広い世代が活躍してくれています。気が付けば、私が最年長になっていました。」

同社の佐々木社長は岩手県から、長年の実績や県事業への協力、後進育成などを評価されて『指導林家』に認定されている。「肩書きだけで仕事への直接的な影響はありませんよ。」と仰っているが、若手社員には経験を積みながら着実に技術を継承し、地域林業を支える人材に成長して欲しいという熱い思いが言葉の端々から感じられた。
同社では安全管理への取り組みが重視されている。

「弊社では、毎月の安全ミーティングに加え、現場でのリスクアセスメントを実施しています。危険箇所や作業手順を全員で確認する。『危ないと思ったら無理をしない』その方針を徹底しています。人力による伐倒を減らし機械を使った作業を積極的に増やすことが労働災害を防止する一番の方法だと思っています。」

長年法人化されなかった理由をお聞きした。「令和3年に法人設立し株式会社となりました。そのことによって私としては何かが大きく変わったとは思っていません。強いて言えば経営基盤の強化と社員が安心して働ける環境づくりですかね。遠野は人口の減少が進み、若い働き手の外部流出も顕著です。先代社長から受け継いだ『地域林業振興に貢献しなさい』と言う教えが弊社の経営理念です。皆伐後の再造林にも積極的に携わり、森林資源の循環利用を支える一方で、近年では補助金の減少やシカやクマなどの獣害、異常気象など、森林を取り巻く環境は大きく変化しています。それでも『遠野の、故郷の森を守りたい』この気持ちは譲れません。安全第一で少しづつ着実に前に進めばいい。地域に根差した林業経営を次世代へ受け渡すことが私の使命だと思っています。」

今回の取材後、同社の佐々木一夫代表取締役は、森林の適正な管理並びに林業の技術・経営の改善に努め、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林の管理経営体であると評価され、令和8年度第65回全国林業経営推進行事において農林水産大臣賞を受賞されました。





SH120-7 KESLA 25RHS mkⅡ

地域の林業振興に貢献する



SH120-7 IWAFUJI スイングヤーダ



SH120-7 IWAFUJI グラップル　SH120-7 PONSSE H6



ふるさとの自然と共生しながら未来につなげる

SH235X-7 IWAFUJI グラップルソー





株式会社 マルワイ

本社所在地：新潟県東蒲原郡阿賀町日野川乙1889番地
代表取締役：長谷川 芳喜 様
電　　話：0254-95-2264
法 人 設 立：昭和61年4月



株式会社マルワイが所在する新潟県東部の東蒲原郡阿賀町の面積は、県下で3番目の広さであるが、その93.8%は森林である。町の中心を町名の由来となった日本でも有数の大河である阿賀野川が流れ、豊かな森林資源に育まれた水は、『東蒲幻米』と名付けられた絶品のコシヒカリを産み、著名な銘酒を造る2軒の酒蔵もその恩恵を受けている。人口をみると40年前に22,000人だった人口は、現在9,000人に減り毎年350人程度の自然減が続き過疎化が進んでいる。

今年株式会社マルワイは、法人設立40周年を迎えた。法人設立以前から数えると親子2代約90年間、阿賀町の林業を支えてきた会社である。同社の代表取締役長谷川芳喜社長にインタビューの時間を作っていただいた。まず初めに社名の由来をお聞きした。

「昔は山から伐りだした材をフジの蔓で結び、筏をつくり川に流して搬出していました。春先の雪解け水が多い季節は流れも速く、岩などにあたってバラバラになってしまうことがあります。その時でも自社材が分かるように、業者はそれぞれの屋号を木材に刻印していました。他社は四角の刻印が多いなか、私の父は自分の名前のイニシャルであるローマ字のYを丸の中に入れた刻印を使っていました。ただ私はあまり気に入っておらず、他の意匠を使ったこともありましたが、法人設立時に父の考えた刻印の呼び名を屋号として登録することにしました。」

続いて同社の業務についてお話しいただいた。「弊社の業務は、林業・製材販売・薪の販売・土木・解体業・一般貨物自動車運送業の6部門に分かれています。社員は全体で20名在籍しており、ほとんどが地元の阿賀町出身者です。そのなかで林業に携わっている者は10名です。新卒者や若い社員を採用したいと思って募集はしていますが、なかなか難しいです。社員の高齢化が進む一方、働き方改革などで土日を休む必要があるので、弊社のような零細企業には厳しいものがあります。作業効率の向上を考えると高性能林業機械の導入は不可避でした。」

最初に導入された高性能林業機械は?の質問に、「当時グラップルは所有していましたが、伐倒はチェーンソーを使って汗を流してやっていました。そんな時に、柏建機サービスの伊藤社長や住友の営業の半田さんに、ぜひ高性能林業機械を見てくださいと誘われて茨城まで行きました。そこでザウルスを見ました。一目惚れでしたね。高額でしたが導入を即決しました。あれから住友さんの機械ばかりフェラーバンチャ ザウルスロボやプロセッサーなど5台購入しています。今ではバックホーだけで13台、7t・10tのクローラー、破砕機、クレーン、高所作業車など、色々な機械を所有することになりました。また、色々と持っていることで仕事は増えてきています。社員の安全、労働の軽減、作業効率を考えて社員3名の現場に機械を6台入れる場合も有りました。その結果、2年前に作業効率が5倍以上に向上していることなどを理由に『令和6年度にいがた県産木材大賞』を受賞しました。実際社員は減ってきていますが、オペレーターの技術の習熟や機械の性能の向上で補っていると考えられます。施業エリアは阿賀町がほとんどでしたが、大賞の受賞で県下での認知が広がり、上越地方からもオファーが来るようになりました。昨年からはクマ対策の里山事業で柿や栗など実をつける木の撤去なども増えてきています。また。諸般の事情があって自社山を所有していたのですが、林野庁の森林経営計画制度の属人計画に認定いただけたのでその仕事も進めていくことになります。私も今年76歳です。繁忙期にはまだ現場で機械に乗って作業もできますが、ふるさと阿賀町の豊かな森を守り、その担い手を育て、未来につなぐことが私の使命だと思って、まだまだ頑張るつもりです。」



SH135X-7 日建ブラッシュクラッシャー

SH135X-7 MSE フェラーバンチャ ザウルスロボ
SH135X-7 IWAFUJI GP35B





SH135X-7 IWAFUJI GP35B



代理店と談笑中





有限会社 池野商店

本社所在地：愛知県岡崎市百々町字池ノ入３０番地１０８
代表取締役　池野　正美　様
電　　話　０５６４－２２－６７０２
創　　業　昭和３６年４月

　創業65周年を迎える有限会社池野商店は、愛知県岡崎市を拠点として木材運搬業からスタートした。昭和56年に入社され、25歳の頃から実質会社の舵取りを担ってこられた現 代表取締役 池野正美社長に同社の歴史と100周年を見据えた次世代の森林づくりへの抱負をお聞きした。

「昭和36年に先代である私の父が、この地で木材運搬を主業として池野商店を立ち上げました。昭和48年と昭和54年の二度のオイルショックは、子どもながら会社が大変なことになっているのは実感していました。昭和59年頃は景気も上向きになりその後バブルへと向かうのですが、当時周辺地域に先駆けて木材用グラップル付きのトラックや林業機械を積極導入し、運搬から集材までを効率化、従来3人で行っていた積込み作業を1人で担えるようになり、生産性は大きく向上しました。さらに油圧ショベルを活用した集材やゴルフ場の造成工事にも事業領域を広げ、バブル崩壊後も公共工事や造成事業との両輪経営によって厳しい時代を乗り越えることができました。振り返ってみれば、時代に合わせて仕事を変えてきたことが今につながっていると思いますね。

　現在は住友建機の油圧ショベルにスイングヤーダやプロセッサを組み合わせ、素材生産や搬出間伐を効率的に進めています。導入の決め手としては、作業効率だけではなく、人手不足への対応、安全性向上、品質の安定化など、多くの効果を実感しているからです。良材は職人が一本一本丁寧に仕上げ、B材やバイオマス材はプロセッサで効率よく処理することで、品質と生産性の両立も図っています。

　住友建機の機械は現場からの評価が高く、故障時も販売店のブルドーザー整備さんが迅速に修理対応してくれるので、安心して仕事を任せられる存在です。今後は海外のような専用林業機械の開発もお願いしたいですね。

　今年20代の若手社員が3名入社して、現在の社員数は11名となりました。施業は3班体制でベテランと若手がうまくコミュニケーションをとって長年培った技術を新入社員に継承してもらえるよう考えています。私の頃は、『仕事は見て覚えろ』と言われた時代でしたが、今の時代は、何故そうするのか、あるいはそうしたほうが良いのかといったことを、理論だって説明して身につけていく時代だと思っています。また、『緑の雇用』制度なども活用して体系的な教育を進めるとともに、毎朝のミーティングや月に2回定期的に全員で食事をしながら情報共有することで、ヒヤリハットを共有し、安全教育の徹底に努めています。当社のベテラン社員は、仕事の技術や能力が高いだけでなく、経営者目線を持って仕事してくれる非常に頼もしい存在です。若い世代がベテランと共に仕事することによって、林業を理解し納得して学んでいける環境づくりをすることと最新の林業機械への投資を続けることで、安全性の向上と高収入を両立することができ、林業を魅力ある職業へ変えていくことができると考えています。

　そして将来的な展望を考えると、森林環境譲与税や種々の補助制度を有効に活用しながら、素材生産だけでなく森林整備やコンサルティング分野への展開も視野に入れておくことが必要だと考えています。今後は単に木を伐るだけではなく、山全体をどう育てるかまで提案できる会社になることが求められると思っています。

　さらにバイオマス用に未利用材を有効活用することで森林資源を無駄なく循環させる体制を構築することも大切な要素です。

　常に高い目線で時代の変化を捉えながら、地域林業を支える企業として歩み続けるために『良い機械、良い人材、良い環境』この三つを揃えることで林業をもっと魅力ある仕事にしていくことが私の願いであり使命だと思っています。」

　創業65年で培った経験を礎に、池野商店は次の100周年を見据え、新たな挑戦を続けている。



SH120-7 IWAFUJI スイングヤーダ



SH135X-7 IWAFUJI GP35V2 オイルクイック付

良い機械、良い人材、良い環境、林業の未来へ





オイルクイックによるアタッチメント交換



代理店と談笑中



技術と安全で、和歌山の未来の林業に貢献

SH75X-7　IWAFUJI GP25V

株式会社橋本林業の所在する田辺市は和歌山県の南西部、ユネスコの世界遺産「熊野古道」の起点となる都市として知られている。同社の橋本歩代表取締役は、高校卒業後、15年間林業会社で現場作業員として経験を積み、高度な伐採技術や現場管理のノウハウを習得し、もっと自由な環境で、自分の力を試したいという思いを持って独立を決意された。

2016年7月の創業以来、今年でちょうど10年目の節目の年を迎えている。橋本社長に、この10年を振り返っていただくとともに将来への展望などをお話しいただいた。

「和歌山の森林は平均の傾斜が30度と急峻な地形が多く、重機だけでは対応できない現場も少なくありません。河川沿いや急斜面では他府県ではあまり使われなくなった集材機を使っての架線集材の技術が求められ、作業者一人ひとりの技術が安全性や生産性を大きく左右します。また、世界遺産の熊野古道周辺では環境への配慮を最優先とし、規制区域への立ち入りを避けながら地域の自然環境を守る姿勢を徹底しています。創業当初はチェーンソー1台からのスタートでした。補助金制度を活用しながら設備投資を進め、創業したばかりでまだ信頼のない時期に高性能林業機械を導入できたのは販売店のキナンさんが頑張ってくれたおかげだと思っています。また、新宮機販さんのサポートもあり毎年1台ペースで導入し、現在では9台の林業機械と5台の車両を保有しています。社員は、14名で平均年齢は38歳と若い世代が中心です。事業内容は、伐採から素材生産までを一貫して担う体制を構築しました。市場の需要に応じて伐採量を調整しながら、住宅用木材だけでなく発電用バイオマス燃料の供給にも対応しており、そのために専任の作業班を組んでいます。公共事業と民間事業を組み合わせることで安定した経営基盤を築く努力をし、同時に森林資源の有効活用も考慮して事業展開を考えています。その一方で弊社が最も力を注いでいるのが安全対策です。5年前に発生した重大事故がその原点です。当時は少人数で事業を運営しており、安全管理が十分とは言えませんでした。『二度と同じ事故を起こしてはいけない』その強い決意から、安全管理のあり方を抜本的に見直しました。全社員が毎日『ヒヤリハット』や『危険予知（KY）』を記録するように取り組み現在もそのシステムを継続しています。危険を感じた場面や、その日の作業で注意すべき点を文章として残し、安全意識を日常的に高める仕組みです。当初は面倒だという声もあったが、粘り強く説明し継続したことで、今では社員にとって当たり前の習慣として定着しました。さらに、事務社員からの提案をきっかけに、膨大な『ヒヤリハット』記録をAIが集計・分析し、社員一人ひとりの危険傾向や注意すべきポイントをレポートして可視化することができました。他人から注意されると反発してしまうこともあるが、AIが客観的に示す結果は素直に受け入れやすいので効果が高いと言えます。分析結果は安全会議でも共有し、自分自身の弱点を客観視し、事故防止へつなげる重要な教材となっています。こうした取り組みの成果なのか、ここ3~4年は大きな労働災害は発生していません。

新人教育にも力を入れており、経験の浅い社員には班長がマンツーマンで危険箇所や作業手順を指導するようにしています。毎朝の現場ミーティングでは、その日の作業内容と危険要因を全員で確認し、安全を最優先にした現場経営を徹底しています。林業は危険な仕事だからこそ、安全への取り組みに終わりはありません。

地域との信頼関係も大切にしています。山林所有者や森林組合との連携は常に心がけており、森林整備による水質保全など、環境への配慮も欠かすことはできません。森林を守ることは地域の暮らしを守ることにつながり、持続可能な森林経営を可能にすると考えます。

今後は、先進的な林業機械やデジタル技術を積極的に取り入れながら、生産性と安全性のさらなる向上を目指すつもりです。また、熊野や和歌山産木材のブランド価値向上や、林業の魅力発信にも力を入れ、担い手不足が課題となる業界全体にも貢献したいと考えています。良い取り組みは自社だけで終わらせるのではなく、業界全体で共有したいですね。現場で磨いた技術、安全への不断の挑戦、そして新たな技術への柔軟な姿勢、その積み重ねが、和歌山の林業の未来を支える力を生み出すと信じています。」



株式会社 橋本林業

本社所在地：和歌山県田辺市芳養松原2－28－6
代表取締役　橋本 歩 様
電　　話　0739-34-2021
創　　業　平成28年7月









SH75X-7　IWAFUJI GP25V　SH75X-6A OKADA グラップル



個々のヒヤリハットをAI分析し、
不安全傾向をフィードバック



代理店と談笑中

▼岡山県

有限会社 寿園

本社所在地：岡山県真庭市若代２３０２－２
代表取締役　梶岡 泰士 様
電　　話　０８６７－４６－２０３８
法 人 設 立　大正９年





有限会社寿園が所在する真庭市は、岡山県の北部で中国山地のほぼ中央に位置しており、北は鳥取県に接し、総面積８２８平方ｋｍと県下最大の面積を有する自治体である。そのうち森林面積は６５４２２ｈａ（林野率約７９％）を占め、その多くは民有林であり、樹種としてはヒノキの割合が高い地域である。

梶岡家は、もともと明治時代から茶づくりを家業とし、山間地域ならではの自然環境を生かし、夏は茶葉の生産、冬は薪や炭づくりを生業としてきた。大正９年の創業以来、真庭市で茶業と林業を営む有限会社寿園は、昭和５年には地域でもいち早く製茶機械を導入。当時としては珍しかった発動機を活用し、製茶工程の機械化を実現した。機械好きだった先代の挑戦心が、現在までも続く「新しい技術を積極的に取り入れる企業文化」の原点となっている。

SH135X-7 MSE ゴルゴザウルス



現在、三代目社長として経営を担われている梶岡泰士代表取締役にお話を伺った。

「私が２１歳の時、実家の工場が火事で焼失し、家業を立て直す手伝いをするべく大学卒業後、帰郷して家業に従事することにしました。当時は木材価格が高く、自社所有林の整備が中心でしたが、その後木材価格が大きく下落し、従来のやり方では利益を確保することが難しくなってきました。そのため林業の機械化と効率化に本格的に取り組む必要にせまられました。とりあえず中古のグラップルなどを導入して作業効率の向上に取り組みましたが、大きな転機となったのはKESLAのハーベスタを導入したことです。軽量でストローク性能が高く、ヒノキの枝払い作業でも非常に使いやすかったことを覚えています。その後、フォワーダやプロセッサなども順次導入し、現在では住友建機製を中心に多くの機械が現場で稼働しています。私の入社当初は数名だった林業部門も、現在では約１０名体制に拡大しました。事業範囲も自社所有林だけでなく、民有林や公共事業まで広がり、素材生産量も大幅に増加しています。高性能林業機械への積極的な投資は必要であり効果が高かったと思っています。住友機は、静粛性、燃費、耐久性のバランスが非常に優れていると思います。特に燃費性能については同じ仕事量でも他社機より燃料消費が少なく、長期的なコスト削減効果は大きいですね。また、油圧制御や配管設計が丁寧で、無理のない動きを実現している点も住友機を信頼できる理由です。さらに、現場の意見を真摯に受け止め、製品へ反映してくれるメーカーとして営業・サービス体制が優れていると感じています。機械は導入して終わりではなく、長く安心して使い続けられることが重要です。その点でも住友建機は信頼できるパートナーだと思っています。

一方、最近の林業を取り巻く環境は大きく変化していて、それに対応することが必要です。木材価格の低迷、人材不足、森林の高齢級化、獣害への対応など課題は山積しています。しかし、バイオマス発電所の稼働によって未利用材の需要が高まり、これまで価値を生まなかった木材にも新たな役割が生まれてきました。また、ドローンなどICT技術の活用も進めながら、より効率的な森林管理へ挑戦することが重要だと思っています。

そして私が会社経営をしていく上で、最も大切なのは従業員が安心して長く働ける会社づくりと、林業は危険と隣り合わせの仕事だからこそ、安全第一を徹底することが何より重要で、事故防止を最優先に現場運営を行っています。また、先代から経営理念として、お客様、生産者、製材所、地域社会のすべてが利益を得られる「三方良し」の考え方を受け継いできています。感謝される仕事を積み重ね、１００年先も地域に必要とされる会社でありたいと願っています。」

最後に社長が締めくくられたその言葉には地域産業を支え続けてきた百年企業としての誇りと責任、そして未来への強い決意が込められていた。

SH135X-7　OKADA　NPH48

お茶と林業、二つの事業で地域を支える



SH75X-7 IWAFUJI GP25T









一貫型林業で新たな時代を切り拓く



SH135X-7　IWAFUJI グラップル

株式会社迫田興産の所在する伊佐市の市境は、北は熊本県、東は宮崎県に接している鹿児島県最北の都市である。同社の創業者である迫田成満代表取締役は、林業科を卒業後、旧薩摩藩島津家の財産管理会社に入社し林業部に配属された。そこで、20年間林業の現場や管理業務に携わり、技術や知識を身につけ独立を決意した。創業当初は社員を抱えず、一人で緑化樹木や芝生の販売・配達を行うところからスタートした。2tのユニック車1台で九州各地や広島まで配送を行うなど、自ら営業、配達、施工をこなす日々だったという。創業当時から現在までを迫田社長に振り返っていただいた。

「創業してから2年目に地元で行き場を失っていた若者を一人雇い入れました。一緒に働きながら社会人として更正させようと思ったのです。マンツーマンで仕事のすべてを丁寧に教えました。仕事を通じて責任感や技術、社会性などを身につけると、今度は翌年に入ってきた後輩に仕事を教える社員に成長していました。

その社員教育システムが構築されると、安全教育や技術継承が自然に行われる組織へと発展しました。現在では林業のみならず農業、食品小売、菓子製造など幅広く事業を展開し、外国人実習生を含めた社員数は29名にまで増えています。平均年齢は20代後半の若い組織です。

平成18年には、本格的に素材生産事業へ参入しました。それも単なる伐採事業ではなく、独自性の高い他社と違う林業経営を目指そうと考え、苗木の生産から始まり、植林、保育、間伐、主伐、再造林、まで自社ですべてを行う一貫型林業を構築することにと努めました。全伐の仕事が多かったのですが『山の木を伐ったら必ず植えて返す』ことを目標にし、仕事を翌年に残すことなく再造林率100%を徹底してきました。それを実現するために苗木生産も事業化しました。かつて在籍していた会社で最初に担当させられ、最も大変だった仕事が苗木作りでしたが、その時の経験が今では大きな強みとなっています。」

同社は令和3年に全国林業改良普及協会の『新たな森林（もり）づくりコンクール』に於いて『一貫型林業の作業システムによる再造林推進』が新規性のある優れた経営の取り組みと評価され同協会の経営部門の会長賞を受賞されている。

「次に会社の成長を支えてくれたのが高性能林業機械です。この地域の樹種は70%がヒノキで60年生70年生がメインです。プロセッサーではヒノキの枝はたちうちできないので、他社に先駆けて誰も使っていなかったKESLAハーベスタを積極的に導入して生産性の向上を図りました。導入後も住友さんのサービスにガードを強化して欲しいとか足回りを強くして欲しいとか色々と要望をだしましたが、要望を聞いていただけたのか3型、5型、7型と機械もグレードアップしてきて、今はこれ以上望むことはないレベルまで来たと思っています。機械の性能向上と社員の技術の向上もあって昨年度の素材生産量は約35000㎥と創業当初の20倍規模まで拡大できました。また、素材生産だけではなく、『使いきる林業』も目指しています。従来は山に残されていた未利用材もすべて回収し、木質バイオマス発電の燃料として活用する体制も構築しました。このことは、山での作業効率も上がり再造林も楽になり、資源の有効活用による新たな収入源となっています。



農業は1年で結果がでるが、林業は何十年もかけて継承する事業であると教えられました。確かにそうですがこれからの林業にはスピード感も必要だと思っています。昔のように50年も木の成長を待っていられません。そのことを見据え早生樹種（コウヨウザン）の苗木作りも8年前から始めました。私が現役中に一度は伐れるかと楽しみにしています。

将来の展望として、次の時代の林業は、自分で思い描いて作っていくことが大切だと思っています。今後の林業はエネルギー資源の供給を目的とした短伐期施業と建築資材の生産を目的とした長伐期施業に二分化され、それを組み合わせた林業が次の時代の林業だと考えています。そのため社員には誰よりも早く手がけたいという野心を忘れてはならない、今は誰もやっていないが、若い社員が私の年齢になった時の事業の礎になるのだと説いています。経営理念として社員へ最も伝えていることは、人として素直であること、前向きに挑戦すること、感謝と謙虚さを忘れないことの3点です。次世代の林業を切り拓くために、環境問題などにも対応していく必要がある一方で『CO2削減』などの言葉だけが先行するのではなく、本来の林業文化や森林を育てる使命を忘れてはならないと話しています。林業は100年後へ受け継ぐ産業であるという信念のもと、伐って終わりではなく、植え、育て、未来へつなぐ循環型林業の実現を目指し、地域とともに歩み続けて欲しいと思っています。」



株式会社 迫田興産

本社所在地：鹿児島県伊佐市大口目丸１３３－１
代表取締役　迫田 成満 様
電　　話　０９９５－２３－０９０７
創　　業　平成１６年１０月



苗木ビニルハウス







SH135X-7 MSE フェラーバンチャ ザウルスロボ　SH135X-7　IWAFUJI グラップル





サービスマン取扱説明